

1. 職名及び人員 教授または准教授 1名
2. 所属 生物資源科学部附属フィールド教育研究センター フィールド農学グループ
3. 専門分野 家畜飼養管理学分野
家畜飼養管理学分野では、資源循環型の肉用牛生産体系の構築を目指す畜産技術の教育研究を進めている。そのため、本公募により、家畜飼養管理に関するフィールド研究の実績を有し、飼料生産学および家畜生産学に基づいた家畜飼養管理の実用技術開発に関する研究・教育および地域貢献に積極的に取り組み、また、フィールド教育研究センターにおける教育研究資源の管理運営にも意欲をもってあたる人材を求める。
4. 担当授業科目 家畜生産・管理学、畜産資源循環利用学、生物資源科学と農業生産、農業基礎演習、農業技術実習、プロジェクト卒業研究等
5. 応募資格 (1)博士の学位を有しているか、または採用予定日までに取得見込みであること。
(2)当該分野の教育と研究に熱意を持っていること、地域貢献にも意欲を持っていること。
(3)国籍は問わないが、日本語が堪能であること。
(4)採用が決定した場合、確実に着任できること。
6. 採用予定日 平成30年10月1日
7. 勤務条件等 (1)身分 公立大学法人職員
(2)給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制
(3)勤務 裁量労働制
(4)任期 5年の任期制（再任回数に制限はありません。）
(5)定年 67歳
8. 応募書類 (1)履歴書（本学所定の様式1による。＊）
(2)研究業績書（本学所定の様式2による。＊）研究業績は、①学術論文（査読付き）、②国際会議発表論文（査読付き）、③その他に分類して記載してください。また、主要なもの5編に○をつけてください。
(3)主要論文5編（コピー可）
(4)これまでの研究、教育及び社会活動（地域貢献を含む。）の概要（1,000字程度）
(5)教育に対する抱負（1,000字程度）
(6)研究・地域貢献に対する抱負（1,000字程度）
(7)応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先
(8)科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧

注）＊印：履歴書（様式1）及び研究業績書（様式2）については、ホームページ（<http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/saiyo.htm>）を参照してください。
9. 応募締め切り 平成30年5月31日（木）必着
10. 選考方法 (1)第一次選考 提出書類審査、プレゼンテーション・学部選考委員会による面接
(2)第二次選考 プレゼンテーション・役員による面接
※面接の旅費等は自己負担となります。
11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先
〒010-0444 秋田県南秋田郡大潟村南2-2
秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科
フィールド教育研究センター教員選考委員長 露崎 浩
TEL：0185-45-3907（ダイヤルイン） E-mail：tuyuzaki@akita-pu.ac.jp
※封筒の表に「家畜飼養管理学分野教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。
応募書類は返却しません。
12. その他 本学は、女性の職業活動における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援・環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。
(女性活躍推進行動計画：<http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/pdf/joseikatsuyaku.pdf>)
(子育て支援等行動計画：<http://www.akita-pu.ac.jp/kosodate/kosodate.pdf>)

生物資源科学部附属フィールド教育研究センター フィールド農学グループ

家畜飼養管理学分野 教授または准教授 に求める人材像

フィールド教育研究センター（FC）は、生産の現場（フィールド）を踏まえ展開するフィールド農学研究を重視し、その成果の実用化・現場への普及を目指した生産技術を開発する研究を推進しています。

FCの畜産分野では、日本短角種などの肉用牛を対象に、飼料生産学および家畜生産学に基づいた家畜飼養管理の実用技術の開発を目指しています。そのため、家畜飼養管理学分野に関するフィールド農学研究を行い、その成果を実用化し地域貢献を目指す教員を求めます。

FCは、生物資源科学・農学の教育において不可欠な実習および演習科目を担当しています。あわせて、FC独自の科目を開講しています。家畜飼養管理学分野の教員は、それらの科目において、家畜の飼養および飼料生産に関する単元を担当します。また、「家畜生産・管理学」、「畜産資源循環利用学」等の講義、およびアグリビジネス学科の教員と連携して「プロジェクト科目（実習、演習・実験、卒業研究）」を担当します。これらの教育に熱意をもってあたる人材を求めます。

また、FCの家畜飼養管理学分野の教員は、牧草および飼料作物の生産、放牧、肉用牛の繁殖・肥育一貫生産といった家畜生産の全般について、家畜管理と飼料生産の計画を立案し、職員とともに畜産部門を管理運営します。そのような教育研究資源の管理運営にも意欲をもってあたる人材を求めます。

生物資源科学部附属フィールド教育研究センター フィールド農学グループの概要

フィールド教育研究センター

●フィールド農学 グループ

生産の現場(フィールド)を踏まえ展開するフィールド農学研究を重視し、その成果の実用化・現場への普及を目指した生産技術の開発研究

- ・作物生産: 大規模水田で利用できる雑草抑制技術(ロボット除草機)の開発、イネ直播き栽培の収量安定化技術
- ・果樹園芸: キイチゴ属植物の遺伝資源の収集、評価及び利用、キイチゴ(ラズベリー)の栽培体系の確立
- ・家畜飼養管理: 飼料生産学および家畜生産学に基づいた家畜飼養管理の実用技術 (今回公募)
- ・農業機械・作業技術: 農業機械の開発・改良、作業システム開発

アグリビジネス学科

●アグリテクノロジー グループ

地域の自然的特性及び資源に基づく持続可能な作物・園芸・家畜生産の実用的先進的技術革新

農業生産学: イネ、ムギ、ダイズ等土地利用型作物、栽培技術の技術革新、イネの遺伝学的研究

園芸利用学: 競争力を持つ生産技術・実用技術開発、リンゴ矮化栽培の技術確立、福祉や教育の場面における園芸活動、鉢物花きの栽培と繁殖の効率的改善、ヤマノイモの新規生産技術の開発

畜産資源利用学: 資源循環型の肉用牛生産のための畜産技術研究、未利用資源の飼料化を含む畜産資源循環利用、動物機能制御技術の開発

●ルーラルエンジニアリング グループ

農地工学、農業水利学、農地防災保全学、生産システム工学による農業の高度化・体質強化を支える生産基盤整備に関する研究を行う

農地や水利システムの多面的機能を高める基盤づくり、水管理構造と環境への影響評価、農村水系における自然浄化機能の活用、農地防災保全学による水利施設の安全設計、ICT活用による農業技術革新、高度な情報処理による新たな圃場生産システム構築

●アグリビジネスマネジメント グループ

経営、流通、政策・経済、社会の分野から、地域農業ビジネス、地域資源活用ビジネスの将来像を提案

農業構造等に影響を与える農業政策の分析と評価、農業経営及び地域農業構造の実態分析、新たなビジネスの構造と展開、流通場面における持続的発展の条件等についての実証分析、地域主体の形成のあり方や支援方策の提案